

2020年7月1日

2019年度 保育士支援事業（支援者支援）実施報告

寒川町障がい者相談支援事業所ゆいっと
文責 齋藤 優子

○事業内容 発達につまづきや気になる児童が存在しているクラスの運営やその子にあった保育（支援、環境設定）について担当保育士等に助言をおこないます。

○実施期間 2019年6月～2020年3月31日

○担当 寒川町障がい者相談支援事業所ゆいっと（佐藤 田中（恵） 齋藤）

○依頼園数 6園（うち2園は毎月定期訪問）

○相談件数 29件（延べ件数）

月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	2	8	2	1	1	3	0	11	1	0	29

○相談内容

別紙保育士支援シート参照（障害福祉課へ提出済み）

○支援内容

- ・担当保育士等が事前に記入した保育士支援シートをもとに、対応に困っている場面および通常の活動場面の行動観察を実施、その後、担任職員とのフィードバック（面談件数延べ29件）を行い今後の対応を一緒に検討、状況によって支援環境等の助言を行った。
- ・開始当初より行動観察90分・フィードバック最大60分を目安に設定、しかしフィードバックにおいては時間内で終われない状況も度々あった。
- ・定期訪問園においては、状況に応じてフィードバック後の支援の様子や、担任等からの意見を直接確認する時間も設けた。（※相談件数には含まず）

○毎月定期訪問をした2園とは振り返りを実施。

（3/27 寒川保育園振り返り）

- ・定期的な訪問は担任の安心感に繋がった。
- ・園職員以外からの見立て等があったことで新たな支援方法の発見ができた。（毎日身近で関わっているからこそ気づきにくい）
- ・見立てが変わった事で声掛けにも変化があった。
- ・クラスで抱えていた課題を職員会議で周知、園全体で対応することができた。（個別的な配慮等）
- ・支援シートを記載していくことで、改めて担任気づきになった。
- ・今年度依頼したケースで次年度在園児については継続を希望するケースもある。（進級に伴う環境の変化が起こるため）
- ・複数担任の乳児に比べ1人担任の幼児は課題を抱え込みやすく依頼が予測される。
- ・ケース検討会を実施したい（各学年や勤続年数の近い職員同士等少人数から実施）

（倉見幼稚園振り返り）

- ・3月に日程調整をしたが、コロナウィルスの影響を受け延期となってしまう園の再開後に

改めて調整し実施する予定。

○支援者勉強会

開催日	参加人数	内容
2019年 8月 6日 (火)	30名	困っている子の特性、家族と保育士との関係づくり
2019年11月29日 (金)	35名	行動やことばの気になる子ども
2020年 3月 6日 (金)		コロナ影響により中止

- ・研修内容としては概ね好評を得ている。今後取り扱って欲しい内容としては、ケース検討などの意見が多く出ていた。
- ・ケース検討の希望が多い理由として、より実践に活かせる話し合いの場を求めていることや、ケース検討を自分達の園でより効果的に実施できるようにと意欲的である。

○家族支援事業

- ・家族サロンについては昨年度実施できていない。今年度に向けて、子育て支援機関とのコラボレーションを検討中。
- ・家族向け勉強会を2020年3月7日(土)で予定していたが、コロナウィルス感染拡大予防の観点から中止となった。

○実施から見えてきた課題

- ①チーム支援の強化(本人・家族・事業所を支えるチーム作り)
 - ・園や担当保育士もしくは家族が抱え込まない環境・体制づくり
 - ・課題解決が図れる協議の場の設定
- ②家族支援の強化(本人理解の支援と、互助、共助の関係づくり)
 - ・障がいやその子の理解を促す環境づくり
- ③予防的支援の強化(支援の質向上と事業所間による引継ぎの徹底)
 - ・支援者(保育士)への学習機会の提供
 - ・支援(保育)に必要な子どもの情報共有